

会議議事録

事業名	令和7年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」 (4)職業実践専門課程等の充実に向けた取組の推進 ①社会的評価の一層の向上のための共通基盤整備の推進 「新たな持続的・地域対応を重視した第三者評価機関創設に向けた体制整備」
代表校	一般社団法人全国専門学校教育研究会

会議名	第3回 評価組織委員会
開催日時	2025年11月4日(火) 10:00～12:00
場所	オンライン開催
出席者	委員 OL: 下藺 恵子、成底 敏、沖 直彦、木村 隆浩、佐藤 善邦、 五十部 昌克、及川 源太、岡村 慎一、稲永 由紀、 松本 晴輝、富田 伸一郎、小林 幸治、原田 大五郎、 関口 正雄、宮澤 賀津雄 計 15 名 事務局: 八木 信幸、金月 雅夫 計 2 名 合計 17 名
議題等	<p>【目次／議事内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長挨拶 2. 事業の概要及びスケジュール 3. 事業の進捗状況(確認・検討事項) <ul style="list-style-type: none"> ○ ① 第三者評価機関の実施体制の構築 ○ ③ 地域拠点立ち上げに向けた役割分担の整理と現地組織との調整 ○ ④ 地域拠点との連携による地域対応を重視した第三者評価のモデル検証(試行) ○ ② 第三者評価の評価者要件の整理と評価者育成体制の構築 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ol style="list-style-type: none"> 4 議事内容 <ol style="list-style-type: none"> 4.1 委員長挨拶 会議の冒頭において、委員長より開会挨拶が行われた。 4.2 事業概要及びスケジュールの確認 本事業の全体スケジュールについて確認が行われた。 あわせて、本年度の到達目標として設定している以下の4項目について、進捗確認および検討を進めることが共有された。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 第三者評価機関の実施組織体制の構築 2. 地域拠点立ち上げに向けた役割分担の整理と現地組織との調整

3. 地域拠点との連携による地域対応を重視した第三者評価のモデル検証

4. 第三者評価の評価者要件の整理と評価者育成体制の構築

※ 当日の審議は、上記のうち、実施組織体制、地域拠点調整、モデル検証、評価者育成の順に進めることとした。

4.3 事業の進捗状況(確認・検討事項)

① 第三者評価機関の実施体制の構築

令和8年度以降の第三者評価機関の本格運用を見据え、今年度中にその基盤となる実施組織体制を設計することを主要な到達目標とすることが改めて確認された。

専修学校における第三者評価の信頼性と持続可能性を担保するためには、独立性・中立性・専門性を兼ね備えた組織構造を明確にするとともに、評価機能と運営機能を適切に分離することが必要であるとの認識が共有された。このため、組織の基本機能として、以下の役割を担う仕組みを整備する方向で整理が進められていることが報告された。

* 評価業務を担う評価委員会

* 事務運営を担う事務局

* 運営方針を監督する理事会

今後は、これら各機能の責任範囲や役割分担を整理するとともに、情報公開、評価者育成、地域連携等を含む全体像の設計を進め、業務フロー図や役割分担マトリクスの作成を行うこととされた。

また、第三者評価を実施するために必要な経費の積算や、学校側の費用負担軽減策についても、引き続き検討を進めることが確認された。あわせて、既に共有済みの自己点検評価表案に記載された第三者評価項目について、評価組織委員会としての整理・決定を進める必要があることが示された。実施体制設計基本方針案については、引き続き小委員会で再検討を行うこととした。

② 地域拠点立ち上げに向けた役割分担の整理と現地組織との調整

地域に即した第三者評価体制の構築に向け、各都道府県の専修学校各種学校団体等を地域拠点の中心的機能として位置付け、全国から3地域をモデル地域として選定し、役割分担の整理および現地組織との具体的な調整を進めていることが報告された。

モデル地域は、東北、北関東、四国の3地域とし、それぞれについて事前打合せや現地説明、今後の協定締結に向けた調整が進められている。各地域においては、地域団体との協議を通じて、評価業務、連絡調整業務、支援業務等の役割分担の実現可能性を検討している。加えて、本部との連携を円滑に行うための情報共有ルールや協定書素案の作成も進められている。現地調整については、委員および事務局が各地域の関係団体を訪問またはオンラインで説明を行い、事業内

容や役割分担の詳細について意見交換を行っていることが共有された。

地域拠点における役割整理と連携協定書案については、小委員会において再検討を継続することとした。

③ 地域拠点との連携による地域対応を重視した第三者評価のモデル検証（試行）

地域拠点と連携し、専門学校を対象とした第三者評価のモデル実施を通じて、オンラインで対応可能な評価項目と現地調査が必要な評価項目を整理することを目的としたモデル検証の計画が報告された。

評価チームは4名程度で構成し、1校あたり延べ50時間程度を目安として検証を行う方針が示された。モデル検証対象校として、3地域それぞれにおいて1校ずつ実施し、1月中旬にかけて順次行う予定であることが共有された。

検証にあたっては、以下の観点を確認することとした。

- * 評価者育成研修受講者の評価能力
- * 評価基準の適切性
- * 評価記録の妥当性
- * 審査委員会の役割
- * 組織・体制の妥当性

これにより、地域対応を重視した第三者評価の実施方法の実効性を検証し、今後の制度設計に反映させていくことが確認された。

④ 第三者評価の評価者要件の整理と評価者育成体制の構築

第三者評価の信頼性と実効性を確保するため、評価を担う人材の適切な選定と育成体制の整備について説明が行われた。評価者として想定する対象は、専修学校関係者に限らず、当該専門職の実務者、産業界・企業関係者、職業教育のマネジメントに通じた大学等の有識者まで広げ、多様な観点を反映できる体制を目指すことが示された。

今後の具体的な取組として、以下の事項を進めることが確認された。

- * 評価者像および要件の整理
- * 評価者育成研修カリキュラム素案の設計
- * 評価者候補の把握と選定方法の検討
- * 評価者育成研修の試行
- * 継続的能力開発(CPD)制度の設計

評価者に求められる資質・能力としては、教育評価力、職業教育への理解、公平性・中立性、利害関係の排除意識等が重要であることが確認された。

研修カリキュラムについては、基礎編、応用編、実地編の段階的構成を基本とし、集合研修とオンライン研修を組み合わせた実施方法を検討することとした。

評価者候補としては、既存の審査員資格保有者、関連評価制度の審査経験者、内部質保証人材育成研修の受講者等を想定し、評価・認定・登録制度の

	<p>構築も含めて検討を進めることが示された。</p> <p>また、評価者育成研修については、20名程度を対象として、オンデマンド研修と対面によるグループワークを組み合わせた試行を12月に実施する予定であることが共有された。</p> <p>これらを踏まえ、評価者要件・構成方針案、評価者育成研修カリキュラム案、評価者の評価・登録規程案について、小委員会でさらに検討を進めることとした。</p> <p>5 今後の方向</p> <p>本年度の到達目標は、令和8年度からの本格運用を見据えた第三者評価機関の実施体制づくりと評価者育成体制の構築であることを改めて確認した。</p> <p>今後は、小委員会において各成果案の精査を進めるとともに、地域拠点との連携協定やモデル検証の結果を踏まえて、制度設計の具体化を図ることとした。</p> <p>以上をもって、本日の議事を終了した。</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 00 第3回評価組織委員会 議事次第(案)_20251103 ・ 01_2025 版 自己点検評価表(案)_20251007 評価者要件チェックリスト(案)_20250912.xlsx ・ 02_0102 地域拠点における役割整理と連携協定書(案)20250912 ・ 【参考】自己点検評価表及び運用ガイドライン(本文)案_20250929